

コースの概要と人材養成のねらい

児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価の能力を持ち、教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員を養成します。そのため、カリキュラム・マネジメントの理解を起点として、教科を統合する力を身に付けるとともに、教科領域の確実な学習指導と評価に加え、授業単元・カリキュラム設計とその評価・改善ができる能力を獲得させます。また、ICTの先進的活用、アクティブ・ラーニングなど効果的な授業形態の導入、パフォーマンス課題の設定とルーブリック評価の適切な活用など、教科領域を含む教育実践力を総合的に育成します。

配当学年	開講期	(DP1) 学校教育の発展的理解	(DP2) 指導内容の高度な理解と実践的指導力	(DP3) 多様な子どもに対応できる指導力	(DP4) 教職力量をみがく力
		・社会における学校の役割と望ましい専門職としての教員の在り方を理解し、それを踏まえたキャリアプランを策定できる。 ・学校安全と危機管理、人権教育、健康教育、子どもの貧困と児童虐待、社会的包摂などの今日的な教育課題について理解し、それに応じた実践を計画・実施できる。 ・学校の実情や特徴を踏まえた経営計画を策定できる。	・教育課程編成の今日的課題やカリキュラム・マネジメントの理論を理解し、それを踏まえた実践を推進できる。 ・各学校の実情を踏まえて、当該校の教育課程全体を編成できる。 ・教科等の授業の多様性や今日的な在り方を理解し、それらに応じた授業を計画したり、そのための教材を準備したり、その指導と評価を工夫したりできる。 ・教科横断的な視点に基づき、また校園種をまたいで、教科領域のカリキュラムを構想・実践できる。 ・教科領域の教材・題材を開発し、実践的に展開できる。 ・アクティブ・ラーニングを実現するために、各教科や教科領域の指導に即してICTを効果的に活用できる。	・各学校種の生徒指導上の問題のメカニズムや多様性を理解し、理論的・実践的に解釈できる。 ・各学校種の生徒指導上の諸課題に関して、発達段階や状況に応じた指導ができる。 ・各児童生徒の生徒指導上の諸課題に対し、適切な指導方法を選択して他の教員へ指導・助言ができる。	・教育実践を研究的に展開するための視点と方法を会得している。 ・教育実践者としての自己を省察するとともに、他の教員との学びあいの中で教員の資質能力の向上をリードすることができる。 ・組織としての学校やその基本単位としての学校の在り方を理解し、地域・保護者・他機関との関係の構築を進めることができる。 ・教材や題材を開発することの重要性を認識し、それを実行できる。 ・授業を研究的に分析・省察し、授業改善につなげることができる。 ・他の教員と協働で、教科横断的な教育実践を立案・実践・省察できる。
M2	T4				教師力・学校力・スクールコンプライアンス[2]
	T3			社会的包摂に関する実践的探究[2]	実践課題研究Ⅰ・Ⅱ 学校実習科目 [計10]
	T2				のルける通常もの○ の実ーる常のの 践シイン学級ある 2ブック級にお 教育教育子ど [2]
	T1	人権教育の課題と実践[2] 学校安全と危機管理[2]		他地域教育実践演習Ⅱ[1]	
M1	T4		カリキュラム・マネジメントの理論と実践[2] カリキュラムデザイン演習(身体と表現)[2]		教育評価の理論と実践[2] 教育研究方法演習[2]
	T3	外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ[2]		インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援[2]	研究科共通科目 太字は必修
	T2		総合的学習の開発と実践[2] アクティブラーニングの展開[1] 道徳教育の教材開発演習[1]	他地域教育実践演習Ⅰ[1]	コース科目 必修
	T1	外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ[2] インクルーシブ教育の理論と実践[2]	特別活動の展開[1] 教育課程編成の今日的課題[2] 学習指導の実践的展開[2]	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践[2] 生徒指導と教育相談の実践的課題[2]	学校経営と学級経営の理論と実践[2] 教育実践の研究手法[2] コース科目 選択

※授業研究演習、教材・題材開発研究、高度教科内容研究、学校実習科目の詳細は、科目表を参照

※科目名の [] 内の数字は単位数